

事務事業名	真岡井頭マラソン大会開催事業				担当	教育委員会 スポーツ振興課 指導係		
政策名	1	「人づくり」～豊かなこころアップ!～				☒ 総重（総合計画重点事業） ☐ 戦拡（総合戦略拡充事業）	☐ 総新（総合計画新規事業） ☐ 戦新（総合戦略新規事業）	
施策名	6	生涯スポーツ・レクリエーションの振興						
関連個別計画	真岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 毎年度実施（開始年度 昭和59 年度～） ☐ 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
法令根拠	真岡市補助金等交付規則							
予算科目	1.一般会計	10.教育費	5保健体育費	1保健体育総費				
予算科目								
予算科目								
事業概要	昭和59年、真岡市市制施行30周年記念事業として開催。「過去を振り返り現在を見つめ未来を考える」をテーマとした市民総参加型の事業として、「市民ひとり1スポーツ」の推進と生涯スポーツの振興、真岡市のPRを目的として井頭公園をスタート・ゴールとし、例年10月第1日曜日に開催。2km、4km、10kmコースを設定。平成19年度、小学5・6年生の部を新設した。 実行委員数：15人 参加料：小学5・6年生(2km)1,500円、親子ペア(2km)2,500円、中学生(4km)1,500円、一般(4km・10km)3,500円 ※平成29年度から一般参加料を500円値上 ※令和5年度から参加料を一律500円値上(資機材等の高騰のため)と事前送付式(ゼッケン等)を導入							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動）				④活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移							
6年度実績 実行委員会の開催。運営は、教育委員会職員を主とした市役所職員、ボランティアへ依頼。前年度参加者へのDMや広報誌、HPなどにより参加者を募集する。種目は、2km〔小学5・6年生(男子・女子)、親子〕、4km〔中学生(男子・女子)、一般(男子3部門・女子2部門)〕、10km〔一般(男子4部門・女子)〕の15部門。 市制施行70周年記念事業としてゲストランナーに川内優輝さんを招き、包括協定を結ぶ所属のあいおいニッセイ同和損保によるマラソンキャラバンを大会内で開催。また、参加者への70周年の記念品を配布し、キッチンカー等を誘致し賑わいの創出を図った。 7年度計画 ゲストランナーの招待を除き前年度と同様				名称	単位	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込)	
				ア	PR回数		0	0	7	8	8
				イ	実行委員会開催数		3	3	3	3	3
				ウ	大会参加申込み数		0	0	1,411	1,741	1,540
				エ							
				オ							
				② 対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等				⑤対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移			
市民、県内及び関東近隣のマラソン愛好家、ボランティア				名称	単位	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込)	
				ア	市民数		78,592	77,635	77,578	76,972	76,498
				イ	ボランティア数		0	0	158	163	170
				ウ							
				エ							
				オ							
				③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか）				⑥成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移			
マラソンを通して市民の健康づくりや人とのふれあいの場を提供する。 真岡市のイベントとして他市町村へ市のPRの場とする。				名称	単位	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込)	
				ア	市民参加者数		0	0	349	486	430
				イ	市外参加者数		0	0	1,062	1,255	1,110
				ウ							
				エ							
				オ							
				(2) 総事業費の推移		単位	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込)
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0		
			県支出金	千円	0	0	1,118	1,468	414		
			地方債	千円	0	0	0	0	0		
			その他	千円	437	437	4,709	5,869	4,880		
			一般財源	千円	66	8	1,118	1,468	1,822		
	事業費計（A）		千円	503	445	6,945	8,805	7,116			

2. 1 次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 市の政策体系に結び付き、社会環境や住民ニーズ等を考慮した上で目的は妥当か？	☒ 見直し余地はない ☐ 見直し余地がある (評価理由) 市民ひとり1スポーツの推進と生涯スポーツの振興が進むことは、市民の健康づくりに結び付く。
	②公共関与の妥当性 市が事業に関与する必要があるか？	☒ 見直し余地はない ☐ 見直し余地がある (評価理由) 多くの市民が参加・協力する事業として真岡市をPRする場となっており、また市民ひとり1スポーツの推進、生涯スポーツの振興を図るための事業として実施しているため、妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・1枚目の②「対象」③「意図」は適切か？ ・対象を限定・追加する必要があるか？ ・意図を限定・追加する必要があるか？	☒ 対象・意図を見直す必要はない ☐ 対象を見直す必要がある ☐ 意図を見直す必要がある (評価理由) 市民、市民以外のマラソン愛好者、ボランティアを対象とし、市民の健康づくりやふれあいの場を提供しており、適切である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるかどうか？ない場合の理由は適切か？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地はない ☐ 向上余地がある (評価理由) スポーツの振興と市のPRを行っている。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 ・類似事業はないか、統合や連携はできないか？	☐ 類似事業と統合・連携ができる(類似の事務事業名：) ☐ 類似事業と統合・連携できない(類似の事務事業名：) ☒ 類似事業はない (評価理由)
効率性評価	⑥事業費の削減余地 ・成果を下げずに実施主体の見直しによりコスト削減をできないか？ ・実施方法の適正化によりコスト削減をできないか？	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある (評価理由) 大会運営のための必要最小限の経費である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) ☐ 廃止 ☐ 見直し(☐ : 目的妥当性 ☐ : 有効性 ☐ : 効率性) ☐ 統合 ☒ 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		○																					
	低下																							
(2) 課題、課題の克服の方向性 今回大会から開始したキッチンカーをはじめとした出店の一般募集は今後も継続し、賑わいの創出拡大を図る。物価高騰による諸経費の増額に対応するため、協賛金等の増額に向けて尽力していく。 また、大会のPRについては、既存手段の拡大と新たな方法の導入を進めていく。																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ☐ 記述説明不足(説明責任不充分) ☐ 評価内容が客観性を欠く ☒ 評価内容は客観的と言える		(5) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
			コスト																						
			削減	維持	増加																				
成果	向上																								
	維持		○																						
	低下																								
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																									
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的絞込み ☐ 目的拡充 ☐ 事業統廃合 ☐ 事業のやり方改善 ☐ 予算削減 ☐ 予算増大 ☒ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項 令和8年度のコース変更へ備えて、遺漏なく準備をすること。併せて、特に小中学生の参加を増やす方策を考えること。																								